



発行人◎高田かつ子 編集人◎青山富士夫 事務局◎〒211 川崎市幸区小倉1-1, I-514 下山昌孝方 TEL 044-522-4185

メガース女史(エバンズ夫人)来日 縄文時代倭人の南米渡航について

十二月二日東京で講演会

来る十月二十六日、アメリカ、ワシントン・スミソニアン博物館の考古学者ベティ・J・メガース博士(エバンズ夫人・74歳)が東方史学会(代表古田武彦氏)などの招きで来日、十一月二日には東京で講演会も行われることになった。

メガース女史は、既に一九六十年代から、夫エバンズ氏(故人)と共に、南米エクアドルのバルディビア遺跡から出土する土器の中に、日本の縄文式土器と複合的な共通点をもつ土器が多数あることに注目し、来日して日本各地の縄文土器も調査した結果、縄文中期における、太平洋を越えた倭人と南米との交流という、画期的な学説を提出された。当時より海外の学界では活発な論議と注目の的となったが、最も関係の深いはずの日本の考古学界では、ごく一部を除いて、きわめて消極的な反応を示したまま、今日に至っている。古田武彦氏はこれに対して、魏志倭人伝の「又裸国・黒齒国有り、復た其の東南に在り、船行一年にして

至る可し」とある記事と呼応する学説であることに注目、エバンズ夫妻らの学説を中心とした論文集「*MB across the Sea*」を「倭人も太平洋を渡った」として訳出された(一九七七年創生記刊、現在八幡書房で復刊)。さらに、現地バルディビアと、ワシントンのスミソニアン博物館研究室にメガース女史を訪ね(既に夫エバンズ氏は死去)、夫妻の研究の足跡を詳しく追跡された(その実状は古田武彦著「古代史を疑う」一九八五年駿々堂刊、に詳しい)。古田氏はさらに、最近足摺岬付近の古代

巨石遺跡を、魏志倭人伝に、女王国から四千里の距離にあると書かれている侏儒国に比定され、同地が、日本列島でもっとも黒潮の流れに近く位置することから、その海人が黒潮に乗って、中南米海岸にまで渡航したのではないか、という仮説に進まれている。

今回来日されるメガース女史は、足摺岬のある土佐清水市の文化団体などによる足摺巨石文化シンポジウム実行委員会の招きで、同地の遺跡も見学され、古田氏らと共に、倭人の太平洋渡航などの課題をめぐるシンポジウムにも臨まれる予定となっているので、そこでどのような見解が示されるか、注目される場所である。(記・青山富士夫)

関連記事、第二面・十二面

「多元の会」 入会のお誘い

「多元的古代」研究会・関東は「古田武彦氏の提唱された、多元的に歴史を観る考え方に賛同し、それを継承発展させることを理念として、日本の古代の真実の姿を研究する会です。そのほかに難しいきまりはありません。同好の皆様

ご入会を歓迎します。

入会申し込みの方は住所・氏名・フリガナ・電話番号を明記の上、左記へ年会費をお払い込み下さい。

▼入会金千円・年会費四千元

▼郵便振替

口座名/「多元的古代」研究会

関東 口座番号/00170

9・768777

お問い合わせは事務局まで